

3月16日に報告交流会を開催しました

はぐくむ委員の活動を多くの市民の皆さんに知っていただきたいという想いから、第2期と同様に市民参加を募りました。当日は、第4期からはぐくむ委員になっていただく人を含む市民、第3期ははぐくむ委員、市職員など39人が参加しました。



▲さまざまな年代、職業、立場の参加者が集まりました



市長に提言書を提出

報告交流会では、まずははぐくむ委員会から市長へ提言書を提出しました。提言書では、委員会の活動の経過に加えてグループ活動の到達状況、課題、解決策が提案されているほか、協働の企画実践団体として令和6年4月に活動を開始した「はしもとプラチカ」の1年間の総括も記載しています。「はしもとプラチカ」は、第2期報告交流会をきっかけに設立された団体です。

提言書の内容は市ホームページで公開しています



▲はぐくむ委員会から提言を手渡しました

第3期はぐくむ委員会活動報告

次に、「情報共有」「市民参画」「協働のまちづくり」の3つのグループと「はしもとプラチカ」の活動報告を行いました。報告の一部を紹介します。

情報共有グループ

市のイベントや「はしもとプラチカ」の活動を通じて協働に関する情報発信をしています。認知はまだまだ途上だと感じます。SNSなどの活用をめざします。

市民参画グループ

作成した「こどもパンフレット」や「協働まちづくりすろく」の活用方法を検討するとともに、情報共有グループと連携して効果的な情報発信とイベントへの市民参加の促進をめざします。

協働のまちづくりグループ

委員と職員の協働研修の充実を図るとともに、地域運営組織の設立に向け懇話会への参加や協働のまちづくりパンフレットの改訂をめざします。

グループでの交流会

最後に、5グループに分かれ、交流会を行いました。
自己紹介から始め、「第3期の取り組みで良かったこと」「第4期に向けて重点的に取り組むべきこと」について、意見を出し合いました。
各グループから出た主な意見は次のとおりです。



意見交換

「はぐくむ委員」「市民」「市職員」がそれぞれの立場で意見を出し合い、はぐくむ条例の在り方について考えました。

地域の皆さんが広報にもっと目を通すようになれば、地域活動への参加につながるのではないかな。



子どもも大人も市長も職員も議員もみんなが繋がる施策が必要。すごろくなどは年代を問わず楽しめるので、活用できると思う。



地域の現状を知って話し合い、人を集めて楽しいことをすれば地域が活性化する。

そのためには地域の声に耳を傾けつつ、企画や運営をけん引するマンパワーが必要だと思う。

年代などで対象者を絞ったイベントを実施し、参加を促してはどうか。



214人いるはぐくむサポーターを地域ごとに集めて、地域ごとのまちづくりについてみんなで考える場があってもよいのではないかな。
地域運営組織設立の協力もできるのでは。

はしもとプラチカ

人材の掘り起こしや集える場の提供を目的に開催した講座「みんなのチャレンジ」を通じて幅広い年代の皆さんに参加いただき、協働やまちづくりに興味を持つ人が大勢いることを改めて認識できました。参加から参画への発展をめざします。



▲「まなびの日」出展の様子

2年間いろんなことに取り組みました



▲協働まちづくりすろく

あなたもはぐくむサポーターになりませんか？

第4期ははぐくむ委員会が始まりました。第3期の活動を引き継ぎながら、協働のまちづくりの推進に努めます。
少しでも協働に興味を持った人は、はぐくむサポーターに登録してみませんか。
はぐくむサポーターは、「橋本市の自治と協働をはぐくむサポーター登録制度」で、はぐくむ条例の応援をしてくださる人、協働のまちづくりに積極的に参画していただける人に登録していただき、はぐくむ委員会の活動や協働に関する情報を提供しています。

登録方法など、詳しくは市ホームページ（右のQRコード）を確認していただくか、お問合せください。



●問合せ 地域振興室

☎ 33-7117